

J R 東海労申第 1 1 号
2 0 1 9 年 1 0 月 4 日

東海旅客鉄道株式会社
代表取締役社長 金子 慎 殿

J R 東海労働組合
中央執行委員長 木下 和樹

2 0 1 9 年度年末手当に関する申し入れ

J R 東海の令和元年度第 1 四半期における決算では、単体の経常利益が前年同期比 6.8%増となった。このような好調な結果は、様々な大きな自然災害に遭いながらも、現場の社員の計り知れない苦労によってなし得たものである。更に、夏季輸送を含めた第 2 四半期の旅客の利用状況からして、前期の決算では、更なる記録の更新は間違いないと考える。

これらの利益は、社員に同意を得ない一方的休日出勤をさせられ、年休が抑制されながら、慢性的な要員不足が続く現場の中で、社員が会社に一生懸命協力して、安全、安定輸送を支えたがゆえに得られた利益である。

現場の社員の苦労によって得た破格な利益があるにもかかわらず、今年度の夏季手当やベースアップ等の回答は、現場で苦労している組合員はもとより、社員の切実な思いを反映した J R 東海労の要求には程遠いものであった。はたして現場の社員はいつ報われるのか。現場の社員の労働によってなし得た利益を、社員に還元することは当たり前のことである。会社役員の破格な報酬に比べればすずめの涙でしかない。現場の社員なくして会社の存在、更なる発展などありえない。

以上のことから、会社は真摯に現場社員の苦労に応え、下記の申し入れの通り、満額の回答をすること。

記

1. 年末手当は基準内賃金と補償措置額の 3.5 ヶ月分とすること。
また、専任社員にはプラス 50,000 円を支給すること。
2. 組合員に対し、不当な年末手当のカットをやめること。
3. 回答は 11 月 7 日（木）までに行うこと。
4. 支払いは 12 月 2 日（月）までに行うこと。

以 上